

保護者のみなさま

ご存じですか？

「こどもえがおサポートチーム」

最近元気が
ないみたい。

朝、登校した
がらない。

ふさぎこんで、
反抗期かしら？

わが子のちょっと気になること
一人で抱えないで、ぜひご相談を！

困っているご家族やお子さんのお話をお聞きます。
もちろん、個人情報や秘密は固く守ります。

～こどもえがおサポートチームとは～
スクールソーシャルワーカーと、こども
えがおサポーター（子育ての先輩）が
悩みを抱えるご家庭を支援するチームです

※スクールソーシャルワーカーとは、学校現場で子どもたちの環境に
働きかけを行う社会福祉の専門家です。

家族みんなの笑顔をサポートします

～宇部市訪問型家庭教育支援チーム～

「こどもえがおサポートチーム」

UBE 宇部市
未来を彫刻するまち

問い合わせ：宇部市教育委員会 教育支援課

TEL : 0836-34-8630

FAX : 0836-22-6066

Mail : g-anshin@city.ube.yamaguchi.jp

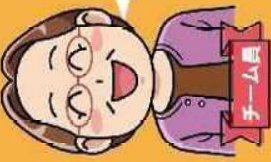
③ 効果のあった支援事例を紹介します！

■ チーム員への聞き取りから

〔ケース-1〕

元気に登校する日が増えてきました

Aさんの母親は日々の生活に疲れ、学校から依頼を受け、支援を開始しました。訪問する際の母親の負担を少なくするため、朝、チャイルドを2回鳴らして5分待ち、子どもが出できたら一緒に登校をすることにしました。また、カレンダーを活用し、Aさんと一緒に一週間の目標を立てるようにしました。次第にAさんに変化が見られ、元気に登校する日が増えてきました。



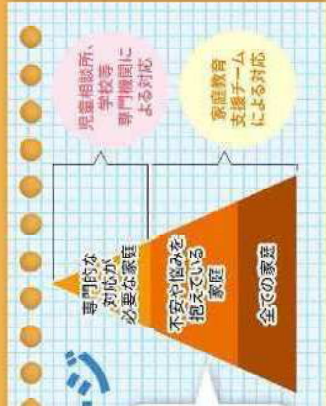
〔ケース-2〕

ありのままの子どもを受け入れられるようになった

Bさんの母親は教育熱心で、「こうあるべきだ」という考えが強い傾向にありました。家庭訪問の際は、母親の話を傾聴し、時にはアドバイスも行いました。支援を続けていくうちに、Bさんの母親も「Bさんに合った生き方がある」と考えられるようになりました。ありのままのBさんを受け入れられるようになったようです。Bさんの母親は、以前に比べて肩の力を抜いて子育てをするように思いました。

支援の対象イメージ

専門的な対応が必要な場合は、早急に専門機関につなぎます。



case

case

〔ケース-3〕

担任とのつながりをつくるきかけになった

Cさんの母親は、責任感が強く全てを抱え込んでしまう傾向にありました。また、これまでの学校の対応に不信感をもっていました。Cさんが不登校になったことをきっかけに、チーム員が家庭訪問を開始し、母親の話を傾聴することで、母親の表情が和らいできました。学期末懇談会で、母親・担任・チーム員の3人で話し、それをきっかけに母親と担任との関係もよくなってきました。現在は、母親と学校(担任や教育相談担当等)が話をする機会を定期的に設けています。



〔ケース-4〕

チーム員やSSWの支援が母親の就労につながった

Dさんの家庭は、ひとり親家庭で母親は働いていませんでした。Dさんが中学校に入學して不登校になったことをきっかけに、家庭訪問を開始しました。母親は懇談会に出席しましたが、チーム員が家庭を訪問し母親の話を傾聴することで次第にチーム員に心を開くようになってきました。チーム員の誘いでサロンに参加し、そこでSSWとのつながりができました。その後、SSWの働きかけにより母親は新しい仕事に就き、少しずつ家庭が安定してきました。



〔ケース-5〕

専門機関への橋渡しで子どもの生活改善につながった

Eさんの家庭はひとり親家庭です。母親の身なりはきちんとしているものの、子どもの衣服等はいつも汚れていました。地域の人からの連絡があり、家庭訪問を開始しました。子育てが困難な家庭の状況を学校に伝え、学校から児童相談所に連絡しました。その後、Eさんの生活環境は改善され、現在、Eさんは毎日元気に登校しています。

